Y's Men International

YMI WORLD

"To acknowledge the duty that accompanies every right"

Only for private distribution to members

YMI ワールド　2021-2022　No.3　日本語版

連帯・「平和のために共に努力する」YMI は、困難なヨーロッパに救いの手を差し伸べる・ワイズ運動ニュース：2022 年国際選挙・YMI 戦略 2032 - 親睦とコミュニティーへの影響における卓越性・ジュネーブの新国際本部・ワイズメンの自己確認：「個々の会員に焦点を当てて」元国際会長ベンソン・ワブレ、ケニア・回想：「タイム・オブ・ファスト（断食の時）への瞑想的回想」カール・ハーツ - ジェンセン、キリスト教強調国際事業主任・マイクロヒストリー：「デイブ・エルダー - ワイズメンズワールドの編集者及び発行人」デビー・レッドモンド、国際事業主任ヒストリアン・国家栄誉賞：ヨハン・ウィルヘルム・エルトヴィックがノルウェー国王功労賞を受賞・スリランカ大統領賞をマハヌワラクラブのメンバーが受賞・過去を振り返って：「価値ある投資を思い出そう」・COP26-「地球を守る長い旅の次への一歩」・地域からのニュース：韓国、アメリカ、インド、モルドバ、アフリカ・魂の真言：「心も思いも一つにして」マックス・エディガー

読者の皆さまへ

親愛なる読者の皆さん、今は、挑戦的でエキサイティングな時代です。チャレンジングなのは、最近、ヨーロッパの平和と安定が乱されているからです。パンデミックのために2年間も閉鎖されていた直後に、このような事態に見舞われるとは、まさに二重苦です。しかし、YMIの奉仕の歴史が2世紀目を迎えるという興奮の中で、私たちは、ウクライナ危機で避難し、苦しんでいる人々への連帯を表明し、気を引き締めていかなければならないのです。

今号では、私たちの連帯の訴えと声明文に続き、運動の歴史と未来に関連するいくつかの興味深い項目をご紹介します。

また、1922年の第1回国際大会のまさにその日を記念して、今年11月に台北で大勢の人が集まることについても盛り上がっています。その準備もさることながら、ジュネーブのIHQのスタッフの積極的な支援のもと、世界各地に散らばる事業主任たちが、私たちの運動の新しいイメージ作りに励んでいます。

先日、オンラインで開催された年央会議では、いくつかのワーキンググループ／タスクフォースが、次の世紀を迎えるにあたり、どのように自分たちを位置づけるべきかについて提言を行いました。

そのうちの2つは、ここで言及するに値します。「戦略2032」文書を作成した前進計画に関するワーキンググループと、国際憲法の現代化に関するワーキンググループです。

この2つのグループは、新しい世代にとって適切な存在であり続けるためには、多くの変化が必要であることを認識しています。「戦略2032」は、YMIを「親睦とコミュニティーへの影響において卓越した組織」にするための10年間の青写真を提供するものです。

私たちは、この文書やその他の提案について、今後数ヶ月の間に詳しく聞くことになるでしょう。真に「会員とその家族の価値に基づく包括的な交流」となるために、この文書について話し合い、その内容を内在化することは、私たちの特権と言えるかもしれません。

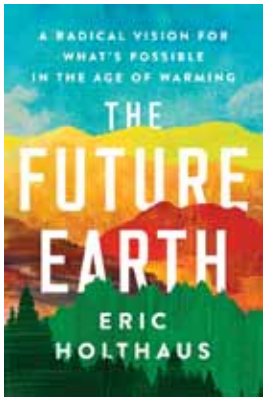
ワイズリー

コシー・マシュー

2021年12月25日、ディーパック・バンダリ部長率いるルンビニYサービスクラブ（香港部）チームは、貧しい子供たちと高齢者に暖かい衣類を配布しました。

YMIワールド
ワイズメンズクラブ国際協会
国際本部:Ave Sainte-Clotilde 9, CH-1205 スイス
国際編集長:コシー・マシュー
日本語版翻訳グループ:田尻忠邦（委員長・大阪）、田中博之（東京多摩みなみ）、青木一芳（千葉）、朝倉正昭（東京世田谷）、今城高之（横浜つづき）、生川美樹（川越）、利根川恵子（川越）、花輪宗命（東京八王子）、比奈地康晴（東京）、倉田正昭（京都）、谷川寛（大阪センテニアル）、谷本秀康（広島）、中井信一（奈良）、前田香代子（熊本ジェーンズ）
印刷:（株）三浦印刷所　三浦克文（岡山）

私の本棚から



未来の地球:　エリック・ホルトハウス著「未来の地球:温暖化の時代に何が可能かについての根本的なビジョン」

気候変動に関する最初の希望に満ちた本で、今後30年の間に気候変動の短期的・長期的影響を逆転させる方法を読者に示しています。気候科学の基本は、簡単です。気候変動が完全に人為的なものであることは分かっています。ということは、その解決策も同様に人為的なものになるのでしょうか。気候変動の提唱者であり気象ジャーナリストのエリック・ホルトハウスは、『The Future Earth』（未来の地球）において、私たちの未来について、特に今後30年間の気候変動の短期的・長期的影響を逆転させる方法について、急進的なビジョンを提示しています。世界レベルの報道、未来学者、気候学者、生物学者、経済学者、気候変動活動家へのインタビューを軸に、私たちが直面している危機の規模で抜本的な解決策を実行すれば、世界がどのような姿になるかを示しています。今後10年間で炭素排出量を50%削減したらどうなるのか。2030年の都市での生活はどのようなものになるでしょうか。2040年、もしグリーン・ニューディール政策によって、米国で100%炭素排出のない経済が実現したら、世界はどのように動くでしょうか。この本は、私たちの環境の現状に圧倒されていると感じているすべての人のための本です。希望と予言に満ちたこの本は、私たちが生きている間に気候変動の影響を逆転させる方法を想像し、良心的な管理人として地球とより深い関係を築き、私たち人類が共有するものへの約束を再確認するよう促してくれます。

（グッドリーダーズ・レビュー）

「平和のために共に努力する」
YMI は、困難なヨーロッパに救いの手を差し伸べる

ワイズメンズクラブ国際協会は、現在のウクライナの情勢を深く憂慮しています。私たちは、ウクライナ、ロシアおよび他の東欧諸国にも拠点を置き、ロシア YMCA 同盟、ウクライナ YMCA 同盟と提携したプロジェクも進行中です。

武力衝突がウクライナの子どもたちや人々に必然的にもたらす死や苦しみを考えると、私たちは、当事者の考えが変わること、エスカレーションの停止、脅威や軍事行動の代わりに対話が行われることを祈ります。

私たちは、ウクライナや近隣の国で直接被害を受けた兄弟姉妹に思いを寄せ、祈ります。そして、「愛と尊厳で世界を癒そう」という私たちが焦点を置いて取り組んでいることの一環として、平和と癒しのために小さな一歩を踏み出し続けます。YMCA も影響を受けた国々で強い存在感を示しており、ヨーロッパ YMCA 同盟と世界 YMCA 同盟のリーダーシップのもと、対応計画を策定しています。

ワイズメンズクラブ国際協会および同・ヨーロッパ地域は、平和活動プロジェクトにおいて確かな経験と影響力を持ち、中長期的な介入を通じて最も影響を受けたウクライナおよび近隣諸国の人々に対する支援を主導する能力を持つ、ヨーロッパ YMCA 同盟と密接に連携していきます。

2022 年 2 月 26 日に開催されたワイズメンズクラブ国際協会年央会議において、国際会長は、ミッションパートナーとしてプロジェクトを支援するために、ヨーロッパ YMCA 同盟に、まずは 10,000 米ドルの寄付を行うことを承認しました。私たちは、各クラブ、各区の皆さんに、「ヒールザワールド」（世界を癒そう）の「ウクライナアピール」への寄付を通じて、さらなる貢献を行っていただくことを訴えます。

国際会長　キム・サンチェ
国際書記長　ジョース・ヴァルギース

Dr Kim Sang-chae
International President

Mr Jose Varghese
International Secretary General

2022 年国際選挙

2022/23 年度の次期国際会長に、デンマークのウルリック・ラウリドセン（左）が選出されました。彼は、2023 年7 月1 日から国際会長を務めます。

ウルリック・ラウリドセン（75 歳、デンマーク）は、1976 年にリンケービングクラブのチャーターメンバーとしてワイズ運動に参加しました。その後、1986 年にヴァイレクラブに移籍し、現在も同クラブのメンバーです。

ウルリックは、デンマーク空軍の軍曹としてキャリアをスタートし、3 年後に兵役を終えました。その後、教員となり、教育局で監察官として勤務しました。その後、イベント担当として1994 年、ヴィングステッド・ホテル&カンファレンスセンターでコーディネーターを務めました。2012 年に退職しましたが、現在もジップラインや射撃のファシリテーターとして活躍しています。

YMI では、ウルリックは、クラブ会長と部長をそれぞれ3 期務め、デンマーク区とヨーロッパ地域でさまざまな事業主任を歴任し、2019-20 年には地域会長を務めました。1982 年にはBF 代表としてインドとスリランカを訪れ、これらの地で永続的な友情を育みました。「ワイズマンとしての最高の経験」とウルリクは語っています。ウルリック は、男性2 人、女性2 人の4 人の成人した子供の父親で、全員結婚して子供もおり、8 人の祖父、1 人の曾祖父となっています。

今年は、次期国際会長の投票に加え、7 つの地域が国際議員、国際議員（青年会員）、次期国際議員の投票が行われました。アフリカ、カナダ/ カリブ海諸国、韓国、米国の各地域では、無投票で選出されました。

国際議員 / 次期国際議員

アフリカ ： ミリアム・カグリ。ケニア（アフリカ南東区）。2022年7月から2024年6月までの青年会員国際議員に無投票で選出

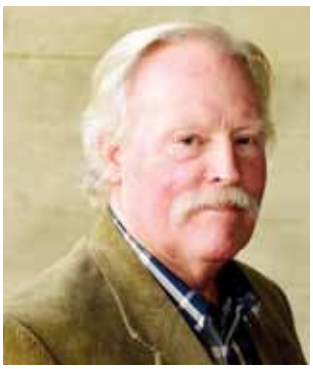
アジア太平洋:利根川恵子。日本（東日本区）。2022年7月から2023年6月までの次期地域会長/国際議員、2023年7月から2024年6月までの地域会長/国際議員に選出

カナダ/カリブ海諸国:サンドラ・ハミルトン。ジャマイカ（カリブ海諸国区）。2022年7月から2023年6月までの次期地域会長/次期国際議員、2023年7月から2025年6月までの地域会長/国際議員に無投票で選出

ヨーロッパ:ピア・カロ-セルグ。エストニア（フィンランド/バルト区）。2022年7月から2023年6月までの次期地域会長/国際議員、2023年7月から2024年6月までの地域会長/国際議員に選出

インド:ラジュ・イヨチャン・チェテュパランビリ。インド（インド中西区）。2022年7月から2023年6月までの次期国際議員、2023年7月から20254年6月までの国際議員に選出

韓国:ハン・イウーク。韓国（韓国西区）。2022年7月から2023年6月までの次期地域会長/国際議員、2023年7月から2024年6月までの地域会長/国際議員に無投票で選出



米国:ダグラス・ジョーンズ。米国（太平洋南西区）。2022年7月から2023年6月までの次期地域会長/次期国際議員、2023年7月から2025年6月までの地域会長/国際議員に無投票で選出

ポール・ウイリアム・アレキサンダー遺産プロジェクト

ポール・ウイリアム・アレキサンダー遺産プロジェクトは、2022 年の 100 周年記念式典に向けて、ワイズメンズクラブ国際協会の創設者を称えるための組織を挙げての取り組みです。

このプロジェクトは、私たちの起源を記念するだけでなく、国際的な連帯とポール・ウイリアム・アレキサンダーのビジョンへのクラブメンバーのコミットメントを強化し、統一された未来を築くことを目的としています。

詳しくはこちらをご覧ください。
https://www.ysmen.org/centenary/pwa-legacy/

ワイズメンズクラブ国際協会　「戦略 2032」
フェローシップとコミュニティへの影響における卓越性

以下は、2022年2月25日～26日の年央会議で「将来計画に関するワーキンググループ」が発表した資料の冒頭部分を抜粋したものです。この文書の全文は、議論とフィードバックのために、ワイズ運動のすべてのリーダーと共有されています。その採択は、5月の国際議会で取り上げられる予定です。

「戦略 2032」は、ワイズメンズクラブ国際協会をフェローシップとコミュニティへの影響において卓越した組織とするための 10 年間の青写真であり、公平で持続可能な世界を築くために、集団的インスピレーションを受け、協力し合って活動することを目的としています。それは、創立から 2 世紀目に入るにあたり、私たちが一丸となって成長し、世界に永久的で前向きな変化をもたらしたいという願望を断言するものです。

2032 年のワイズメンズクラブ国際協会

1. 価値観に基づく会員とその家族の包括的なフェローシップ
2. 多様性を受け入れる地域密着型奉仕クラブの活気ある協会
3. 100カ国、2,500の都市/地域社会で存在感を示す
4. 若い会員を惹きつけ、重要性を保ちつつ継続的に成長する
5. 健康、環境、教育の分野で目に見えるポジティブな影響を与える
6. YMCAとその世界的使命の積極的なパートナーである
7. すべての人にとって公平で持続可能な世界のために行動する

創立 100 周年に備えて、2009 年に「2022 年に向けて」の目標が設定され、主要な国際事業主任のチームが集められ、協力しながら目標達成のための戦略が練られました。その中で、クラブ会員数 5 万人、100 カ国に拠点を置くというエクステンション目標に圧倒的な焦点が当てられました。

2016 年、「2022 年に向けて」は、「2022 年とその先に向けて」となり、チームの構成は、積極的に活動する過去の国際リーダーを取り込むように変更されました。2019 年には「チャレンジ 22」の運営計画が策定され、エクステンションだけでなく、ブランドの認知やアイデンティティ、遺産、YMCA との連携など含め、7 つの重点項目が定められました。

過去数年間、一貫したコミュニケーションと YMCA との協力・関与の改善を通じて、会員内外でワイズメンズクラブ国際協会に対する好感度を高めることに大きな進歩を遂げました。それでも、エクステンションの目標を実現するには至っていません。新型コロナウイルスの発生により、さらに予想外の課題がもたらされました。

今こそ、ミッションパートナーである YMCA とのより強い関わりを実現し、私たちの集団的影響力と世界的存在感を発展させ、国際奉仕団体としての遺産を確保するために、私たちの努力を更新する時です。新しい世紀を迎えるにあたり、ワイズメンズクラブ国際協会は、その遺産を守ることと、100 年の経験を生かし、明るく、大胆で、活気のある運動として前進することに、同じように誇りを持っています。戦略 2032 は、新しい世代の地球市民を惹きつけ、私たち独自のフェローシップを成長させ、活力を与え、すべての人にとって公平で持続可能な世界のために、知性と情熱と利他の心を持って共に活動する、適切かつ活発でインパクトのある運動でありたいという願いから生まれました。

守るべきもの

- 私たちのフェローシップ
- 私たちの地域社会 / 市民活動への積極的な関与
- 私たちのクラブの個性と自主性
- 私たちの国際性
- 私たちの中核的価値
- YMCA への忠誠心

現代化するために

- 私たちのアイデンティティ、ブランディング、PR 戦略
- 私たちのクラブの親睦と活動
- 私たちのサービスモデルとクラブの目標
- 私たちの内外の連携方法
- YMCA との私たちのパートナーシップモデル
- 私たちのファンドレイジングモデル
- 私たちの国際本部の機能
- 私たちの憲法
- 「ニューノーマル」での私たちの運営体制

影響領域

ワイズメンズクラブ国際協会は、歴史的にその影響力を次のように定義しています

- 私たちのクラブメンバーの自己啓発と親睦
- 多様なコミュニティや YMCA への世界的サービスの提供

従来、私たちの活動範囲は、広く分散していたため、ある意味、決定的なブランド・アイデンティティの確立を妨げてきました。近年、国連の「持続可能な開発目標（SDGs）」に注目が集まり、私たちの活動を 17 の目標に整合させることが求められています。新型コロナウイルス後のシナリオと新しい奉仕の世紀を迎えるにあたり、私たちは、世界の現実、メンバーの現在の情熱、若い世代の優先事項に目を向けました。それにより、私たちは、次の 10 年間、奉仕活動に焦点を当て、そして私たちの運動に対する結束した理解と認識を促進するための、3 つの話題となる関心事を特定しました。「世界を癒そう」の傘下に置かれる 3 つの重点分野は、以下のとおりです。

世界を癒そう―健康　環境　教育

功労賞を受賞

ノルウェー国王が、ヨハン・ヴィルヘルム・エルトヴィックに栄誉を与えました

2021 年 12 月 10 日、前世界 YMCA 同盟総主事でワイズメンズクラブヨーロッパ地域の地域事業主任であるヨハン・ウィルヘルム・エルトヴィックは、ノルウェー国王ハーラル 5 世から、民間の仕事で並外れた貢献をした特別な人物にのみ与えられる偉大な名誉であるノルウェー王国功労勲章を授与されました。まさに、80 年前の同じ日、YMCA のリーダーであったジョン・R・モットが、YMCA の運動を代表してノルウェーでノーベル平和賞を受賞しています。

授与式は、スイスのジュネーブにある世界 YMCA 同盟本部で長年働いていたヨハン・ウィルヘルムが、ノルウェーに戻り、現在住んでいる都市トンスベルクで開催されました。

授与式では、ノルウェー YMCA 同盟総主事のオイスタイン・マゲルセンが、心のこもった感動的なスピーチをしました。ヨーロッパの鉄のカーテンがなくなり、YMCA や他のキリスト教団体が東欧諸国で活動する機会を得た 1990 年以降、ヨハン・ウィルヘルムによってヨーロッパ YMCA で始められた広範な運動に焦点を当てたのです。ヨハン・ウィルヘルムは、この運動のキーパーソンであり、この問題に対する彼の数年にわたる努力は、非常に重要なものでした。そしてこのような国々で YMCA が活動するための基礎となりました。彼は、1999 年から YMCA のヨーロッパ同盟総主事を務めました。2011 年から 2018 年までは、世界 YMCA 同盟の総主事を務めました。

総主事として、世界 YMCA 同盟が、ディアコニア（教会的な愛の奉仕）とキリスト教社会実践についてより意識的になることの重要性に注目しました。この発展のための彼のマントラは、「制度から社会運動へ」でした。また、「若者のエンパワーメント」が世界中の YMCA の運動の最も重要な基礎の一つであることを特に強調しました。

また、長年の YMCA での活動を通して、ワイズメンズクラブ国際協会に心を寄せ、数々の国際書記長や国際会長と密接に仕事をしました。私は、個人的には、2015 年にノルウェーのアーレンダールでヨーロッパ地域大会を企画した際、ヨハン・ウィルヘルムと一緒に仕事ができたことを光栄に思っています。彼は、2012 年にノルウェーのスタバンゲルで開催された国際大会でも、基調講演を行いました。彼は、また、YMI ワールドでリーダーシップやリーダーシップ開発に関する記事を書いています。

現在、ヨハン・ウィルヘルムと妻のインガンは、ノルウェー区のトンスベルクワイズメンズクラブの熱心なメンバーです。彼は、またワイズメンズクラブヨーロッパ地域の活動にも参加し、この素晴らしい運動に喜びとインスピレーション、そして献身を分かち合っています。

ワイズメンズクラブ国際協会と世界中の多くの友人を代表して、この長きに亘る運動にふさわしい栄誉を祝福します。

元国際会長　ヘンリー・グリンドハイム

スリランカ大統領賞

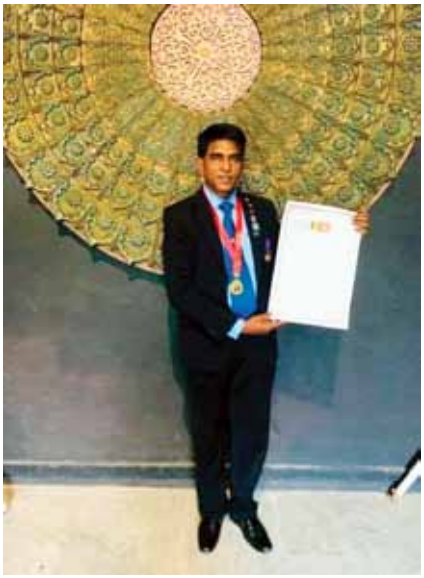
マハヌワラクラブのメンバーが受賞

区事業主任であるマハヌワラクラブのランジス・ダヤラトナが、スリランカの 2020 年デシャバンドゥ・ランカ・プセラ賞（コミュニティサービス部門）を受賞しました。デシャバンドゥ・ランカ・プセラ賞は、スリランカ国民に贈られる 3 番目に高位の勲章です。第 2 位の国家的栄誉であるデシャマニアに次ぐものです。

「デシャバンドゥ」（国家の友人という意味）と「デシャマニア」は、スリランカ大統領から功績のあった国民に与えられる市民栄誉賞です。デシャバンドゥとデシャマニアの称号は、受賞者の名前の接頭辞として使用されることになっています。

これまでのデシャバンドゥ受賞者には、名誉教授、著名な映画監督や俳優、有名クリケット選手、スリランカのオリンピック選手、芸術家、政治家、スポーツマン、社会活動家などがいます。

このように、ランジス・ダヤラトナ区事業主任は、今後、デシャバンドゥ ランジス・ダヤラトナ区事業主任として知られることになります。デシャバンドゥ・ランジスさん、おめでとうございます。



提供：
2021 年 1-3 月号
ワイズメンズクラブ
国際協会スリランカ区
ブリテン

個々の会員に焦点を当てて

元国際会長ベンソン・ワブレ、ケニア

2005 年 7 月、私は、妻メアリー同伴でカナダと欧州を訪問しましたが、たいへん実りあるものでした。カナダでは、プリンスエドワード島シャーロットタウンで開催された米国・カナダ両地域合同の大会に参加しました。よく組織されたすばらしい大会でした。欧州では、スエーデン・ヴェステロースでの国際執行役員会と国際議会の議長を務め、続いて同地での記念すべき欧州地域大会に参加して、華やかな伝統的儀式のうちに、我らが愛するワイズ運動の第 80 代国際会長に、しかも誇らしいことにアフリカ出身の最初の国際会長に任ぜられました。

この旅行で私は、出会ったすべてのワイズメンから示された純粋な敬愛に圧倒されました。出身地の違いや人種・信仰・信条・文化の違いを乗り越えてワイズメンを一つに結び付ける、感激的な友情・連帯感・仲間意識を経験しました。他の組織や人間の間では、あれこれ争いのもとになるこれらの違いすべてが、ワイズメンでは互いをしっかり結びつける要因になるのです。私たちの運動は、未知の他人を一瞬にして親密な友に変換するという魔法を持ったユニークなものです。ワイズメンズクラブ国際協会は、形容し尽くし難いすばらしさを持った、真に世界的な家族なのです。言い換えると、あなたが誰か見知らぬ人に出会って、その人がワイズメンであると知ったとき、あなたとその人の間に起きる強い親愛と結束の思いを、どう表現できるかということです。私たちのワイズ運動は、内在する磁力・魅力・化学変化力によってあなたの心身に作用し、ワイズの会員であるあなたを世界的なワイズ家族の熱心な一員へと育成します。

この上ない友情を経験しつつ目的達成に協力するという機会に恵まれたこのユニークな運動に、私たちが属していることを感謝しようではありませんか。ご存じのとおり、その目的とは、YMCA と地域社会に奉仕すること、他の価値ある団体を支援すること、世界に正義をもたらすこと、宗教的、市民的、経済的、国際的諸問題について会員を啓発すること、そして各地および国際的なプロジェクトに参入することです。

2005/06 年度の私の国際会長主題は「求めるワイズから行動するワイズへ」でした。焦点は、個々のワイズ会員とそのクラブにおける行動にありました。真に行動するワイズ会員とは、地域社会への奉仕で先頭に立つ人、事業・企画の実行に率先参加する人、責任を引き受ける人、クラブ活動に積極参加する人、会費をきちんと納める人、ワイズ運動をよく理解する人、そして国内外の他の組織と協働する人です。真のワイズ会員とは、ユース運動の大切さ、そして、ワイズメネットとの、また YMCA との価値あるパートナーシップを、よく認識している人です。真に行動するワイズ会員とは、自分の必要より他人の必要に応えることを優先する人です。

ワイズダムには失業はありません。失業者は、自分の労働を買ってくれる人を探します。彼らは賃金が欲しいのです。私たちの奉仕は、無料提供で利己心がありません。私たちの報酬は、事業・企画を達成したときの満足感です。地域社会のニーズという形で、たくさんの仕事があります。世界の 8 地域のすべてのワイズメンに呼びかけます。「求めるワイズから　行動するワイズへ」と。

2005 年から 2006 年にかけて YMI の国際会長であったベンソン・ワブレが、Y's Men's World に運動の全てのリーダーへの奨励として書いた文章がこれです。この文章が今日の私たちにも関係があるとの思いから、当時の編集長であったアラン・ウォーリントンの好意的な許可を得て、ここに再掲します。　　編集長

YMI のクラブ会員は

- 理想主義者たれ―積極的だが現実主義的な個人として
- 関心をもて―他者の存在とその幸福度に直感的に関心を持とう
- 勤勉であれ―災害や不正義に直面したら傍観せず献身的に働こう
- 率先せよ―活発に、行動志向で、創造的に行動しよう

タイム・オブ・ファスト（断食の時）への瞑想的回想

カール・ハーツ - ジェンセン、キリスト教強調事業主任 (ISD-CE)

これは、2022 年 2 月 25 日に YMI 年央会議の際に ISD カール・ハーツ - ジェンセンによって報告された回想、祈祷です。伝統的に、YMI は 2 月を TOF の強調月間としてきて、会員は、この月の間の 1 食を抜き、その食費を TOF 基金に献金するように奨励されています。（編集長）

TOF は、イエス・キリストの教えに基づくもの? 私たちは、1972 年以来、50 年の間、世界中で TOF 事業を実施してきました。今年は、8 つの異なる場所での 8 つのプロジェクトを選びましたが、それらは、カメルーンのバメンダ、ルワンダのキガリ、ジンバブエのハラレとタンダ、ケニアのムビタ、マレーシアのジョホールバル、インドのバンガロール、インドのナグプール、そしてチリのサンチャゴです。それぞれのプロジェクトは、15,000 スイス・フラン程の予算があり、総額 12,000 スイス・フランになります。

もし、全てのワイズメンが一食抜けば、今年度の TOF 事業を支える金額を達成することは可能でしょう。それは、そのように簡単なのです。もし私たちが思いを共有し、気に掛けるならば、できることなのです。そして、それが、最も必要とされている支援に対して私たちがその意思を持ち、やる事なのです。

もし誰かが、なぜ私たちが、これをやっているかと聞くならば、答えは明白で自明の事なのです。何故ならそれは、求められていますし、必要ですし、非常に有益なのです。これらのプロジェクトは、確実に多くの人たちに変化をもたらすものなのです。それは、危機的な場所で、救いのない状況に置かれている、希望を失い、障がいを持つような人々にとって、より良い方向へ人生を変える始めなのです。プロジェクトが、数か月あるいは数年進めば、変化と進展と更新のチャンスをくれるのです。TOF のプロジェクトは、希望を与えるのです!

私の最初の文章に気が付きましたか。私は、最後にクエスチョンマークを付けたのです。その理由は、イエス・キリストの教えだからなのです。キリストは、どのように断食するか、あるいは何故断食するか教えたでしょうか。多分違うでしょう。キリストの弟子や対立者が断食の理解と説明を分かることは、多少難しいでしょう。

しかし、イエスは、彼の人生を断食したのです。彼が、洗礼を受けた後、砂漠の荒地に向かい、この世における来るべき使命のために、その心と魂を準備したのです。彼は、砂漠で 40 日間、一人で、孤独に、断食をして過ごしたのです。彼が、このように厳しく断食したのは、彼の使命のために準備しなければならなかったからだと思います。

彼は、自分の弟子や従う者たち、あるいは聴衆に断食せよとは言いませんでした。その代わりに、こう言ったのです「断食するときには、偽善者のように暗い顔つきをしてはならない。彼らは、断食しているのが人に見えるようにと、顔を隠すしぐさをする。よく言っておく。彼らはその報いをすでに受けている。あなたは、断食するとき、頭に油を塗り、顔を洗いなさい。あなたの断食を人に見られることなく、隠れた所におられるあなたの父に見ていただくためである。」それは、イエスが、言っているように：あなたは、断食をしているかどうか、あるいは、いつ断食をしているかを教える必要はなく、あなたの周りの人は、誰も知る必要も無いのです。

もし、私たちの断食の方法についての対応に関してのイエスの教えを聞くなら、私たちの TOF プロジェクトをどのように行い、どのように示すかについて、多分私たちは、十分に注意しなければならないでしょう。焦点は私たちが行うことではなく、具体的なプロジェクトであり、誰が TOF プロジェクトから、便益を得るかなのです。私は、多くの写真を見ていますが、そこでは支援プログラムの中において、ワイズメンがプロジェクトを紹介しています。このような方法において伝えようとすることは容易に理解できますが、私たちが正しい焦点を探す必要があることも、私には分かっているのです。TOF において重要なこととは何なのでしょうか。

イエス・キリストの教えに従っても、どのように断食すべきか、あるいは、何故断食する必要があるかは、非常に難しい問題なのです。断食することは、共に、お互いのために何かをするとは正反対の事です。断食するということは、深く個人的な事であり、一人でやるべきものであり、自分のためのものなのです。それは、ほとんど自己犠牲的で非常に内向的なものであって、他者に開かれたものではないのです。

TOF は、確かに何か非常に違ったものの上にあるものなのです。それは、断食に新しい解釈と全く異なる理解を与えたのです。「断食」は、私たちの現代世界に於いて変形したのです。それは、何か非常に肯定的なものになりましたが、それは、TOF が他者のためのものだからです。それは、世界を見通すものであるのです。それは、あなたの周りの世界に開かれるものであり、そして必要とされるものを見るものであり、単に見るだけではなく、貧しい人たちを支援するために何かをすることなのです。TOF は、大胆に共有し、思いやることであり、世界をより良い場所にするために何かをすることなのです。TOF は、ワイズメンとしての私たちのアイデンティティーと非常に密接したものなのです。

TOF は、お互いのために、また隣人のために奉仕する私たちの現実的な方法なのです。

ですから、TOF をこの目的のために使いましょう。そして世界のために何か慈善を行いましょう。共に世界を癒すために最善を尽くしましょう。

デイブ・エルダー— Y's Men's World編集者および発行者

ISD-ヒストリアン　デビー・レッドモンド

デイブ・エルダーは、アイオワ州ワシントンの週刊新聞の編集者で、Y's Men's World の編集長を誰よりも長く務めました。彼は、Y's Men's World を優れた出版物にした立役者です。エルダーは、クリエイティブな編集者でした。

Y's Men's World における彼のトレードマークのひとつは、毎号、自分が編集者であることを表現する方法でした。その例を挙げると「あのせっかちな心配性の人」、「糊瓶の王子様」、「ワイズ用語の魔法使い」、「小さくて、はげていて、そして美しい人」、「慌て者の役立たず」、「同義語のスルタン」、「幸運な (著述家の) 下働き」、「制止の効かないアイオワ人」などです。

「奉仕の仲間—ワイズメンズクラブ国際協会物語（75 周年記念誌）」より

1936 年 11 月に始まった Y's Men's World の最初の編集者は、デイブ・エルダーではありませんが、彼は、最も長く編集者を務めました。最初の出版は、1936 年の国際大会の後、ハーバート・D・ハンコックを編集長に迎えて始まりました。当初の希望は、出版物をサポートするのに十分な広告を掲載し、より多くの人に送ることができるようにすることでした。しかし、1 年後、この試みは成功しなかったということになりました。ハンコックは、国際書記長兼会計のヘンリー・グライムズの事務所に近いマサチューセッツの事務所で編集の仕事をしていました。1937 年の国際大会では、出版費用を会員に請求し、別の編集者を探すことが合意されました。

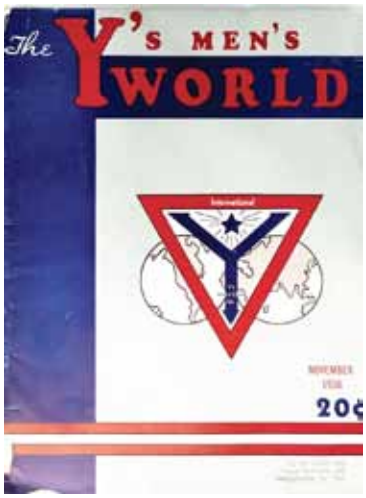
出版することおよび多くの広告を確保することが困難であることが確認されたことを受け、デイブ・エルダーが、出版について何とかすることを検討するよう依頼されました。ハーバード大学を卒業したデイブは、27歳で、地元のワシントン・イブニング・ジャーナル紙（アイオワ州ワシントン市）で働いていました。彼の父親は、この新聞社の一部を所有しており、編集者の一人でもありました。そこで、デイブは、新聞社の印刷機器を利用して印刷することで、この仕事を引き受けることになりました。デイブは、アメリカの郵便局に郵送の特権を申請する必要があり、1937 年 10 月 1 日に申請をしました。そして、デイブ・エルダーによる第 1 号が発送されました（1937 年 11 月号）。さらにデイブは、1938 年以降、国際大会の期間中に毎日発行される大会ブリテンの責任者を引き受けました。

デイブの留守中、配偶者が架け橋となって

デイブ・エルダーは、真珠湾攻撃の前に軍に所属することになりました。彼が、不在の間、妻のメイブル・エルダーが郵便物の受け取りや記事の一部を担当し、出版を続けるために何人かのワイズメンを補佐しました。これは、1941 年 9 月から 1942 年 1 月までの間でした。デイブは、死に至るような緊急事態に見舞われ、4 ヶ月後に軍を除隊しました。除隊後、すぐに、彼は Y's Men's World の編集者に戻りました。

地元のワイズメンクラブの会員になったのは、おそらくデイブが大学在学中ですが、クラブで活発に活動するようになったのは、1932 年からです。また、彼は、長年にわたって YMCA の理事を務め、コミュニティ劇団の立ち上げに協力し、公立図書館の理事も務めました。デイブは、ユーモアのセンスのある人物として、地域社会とその周辺に知られていました。Y's Men's World の出版物を見ると、読者の目を引くことはあまりない小さな文がいつも隠れていて、それは、編集者のページの彼の名前の前か後のどちらかに隠れていました。唯一そこに書かれていなかったのは、第二次世界大戦中、ページ数が減らされた時だけでした。デイブが編集した最後の公式な発行は、1963 年 6 月号でした。

デイブ・エルダーに関して、もう一つ重要な情報は、人々にエンドウメント・ファンドに寄付してもらう彼のアイデアです。これは、彼が 1963 年にエンドウメント・ファンド推進委員会のメンバーに任命されたことから始まりました。デイブは、1963 年から 1969 年まで同委員会の委員を務めました。デイブは、「ゴールデン・ブック」のアイデアを提案し、それに使われる最初の本の表紙を寄贈しました。この提案により、ワイズメンズクラブ国際協会の維持のため、長年にわたって多くの寄付が寄せられました。デイブの死後、150 万米ドルが地元の 3 つの主要なチャリティー団体に寄付されました。YMCA、高校演劇部、ワシントン公立図書館です。さらに、彼の遺産からエンドウメント・ファンドにも寄付されました。



Y's Men's World 初期の表紙の一枚

COP26 — 地球を守る長い旅の次への一歩

気候変動枠組条約締約国会議（COP）は、1995 年以来、毎年後半に 2 週間にわたって開催されている会議です。その中核は、各国が気候変動に関する公約と行動を進めるための正式な交渉の場ですが、世界中のさまざまなステークホルダーが集まり、気候変動の危機と解決策について議論する重要な場にもなっています。

今年はイギリスのスコットランド、グラスゴーで開催され、私は、幸運にも国際ユース代表として、YMI と世界 YMCA 同盟の両方を代表して、このイベントに参加することができました。私は、多くのことを学び、気候変動問題を食い止めるために若者が主導する解決策を実行しようとする、同じ志を持つ、ユース・チェンジエージェントと出会うこともできました。個人として素晴らしい経験でしたし、YMI の国際ユース代表としても、私たち全員が直面している問題に対して実践的な解決策を見いだせるよう、最善を尽くしたつもりです。

COP26 は、どのような経緯で開催されたのでしょうか。COP26 の目的は、世界のリーダーたちが協力して、やる気を高め、気候変動への資金を提供し、気候変動の最

前線にいる国々が悪化した影響に適応できるようにすることです。COP26 は、世界が切実に必要としている前進のための触媒として機能してきています。

グラスゴーで起こったことは非常に重要ですが、COP26 は道の終わりではありません。各国は、COP での公約を具体的な計画や行動でフォローアップする必要があります。今後数ヶ月の間に、国別貢献の強化など、COP での公約をすべての国の現場で実行に移さねばなりません。各国政府は、公約を実現し、パリ協定の目標を達成するために、懸命に努力する必要があります。

しかし、気候変動との戦いにおいて、各国政府は、単独で立ち向かえるわけではありません。国は、中心的な役割を果たしますが、市民社会や企業、市長のような公共団体で働く人々、若者や先住民のリーダー、NGO など、他の多くの人々も解決策の一翼を担わなければならないのです。COP26 は、私たちが直面している気候の危機から地球を守るための長い旅の次のステップにすぎません。その旅を見届けるためには、私たち一人ひとりが必要なのです。

国際ユース代表　ドワイト・トムリンソン

写真は、この記事の筆者が送ってくれた、会議中のグラスゴーでの若者のデモの様子です – 編集長

価値ある投資を思い出そう

1980 年に父が亡くなってから、私は、母のために「旅の報告書」を書きました。

母はそれを、私がどこに行ったかわかるように小さな地球儀をテーブルの真ん中に置いて、「編み物仲間」と共にコーヒーを飲みながら共有しました。これら報告書は、私が子供や孫たちの求めに応じてスウェーデン語から翻訳したものです。以下は、1985 年のパナマへの旅行記からの抜粋です。

「次の停車駅は、本当のスラム街でした。通りにはこの時は雨季の終わりで、水が溜まった穴がたくさんありました。時には 1 時間も降り続く豪雨のため、車も進むのが大変でした。家々の外には、何もすることがないような風情で立ったり座ったりしている人の群れがありました。」

「この辺りは、あまり安全とは言えないと感じたのは事実です。私たちは、家と家の間にある舗装されたバスケットボールコートのある中庭に入りました。コートの上には洗濯物が干してあり、いたる所で子供たちがプレーしており、周りの家々からは大音量の音楽や雑音が流れていました。そしてそのような中で YMCA（ワイズメンが支援）が活動していました。そこには 15 歳から 18 歳の少年たちで構成される 2 つのチームがプレーしていましたが、それは、片方のバスケットのみでのプレーで、もう一つのバスケットの周りでは小さな子供たちがプレーしていました。」

「ゲームが変わると、大きな男の子のチームが、もう一方のコートの方に走って行くではありませんか。彼らが、暴力的に小さい子たちを押しのけようとするのではないかと恐れました。ところが、小さい子たちは、あらかじめ約束していたかのようにコートから離れ、大きな子たちは、ゲームを続けることができました。」

「このようなことが延々と続きましたが、私は、こんなにコートが有効に活用されているバスケットボールを見たことがありません。暫く試合を観ているうちに、私は、審判の笛の音が聞こえないのに、時折ゲームを中断してフリースローが行われていることに気付きました。審判がいないのにです。」

「スラム街で貧困にあえぐこの少年たちが見せたのは、争うでもなくゲームのルールに従うことができることです。その様子を見て、私は心が温かくなる思いがしました。一見してその生活環境から判断して、難しくて暴力的であると思われがちな少年たちですが、彼らは、この事例や、理解を通して、恵まれた国に生活する私たちに多くのことを示してくれました。」

これは、私たちの運動が行っていることのほんの一例です。すべてにおいて、価値ある投資でした。

元国際書記長　イングヴァー・ワリン

この短い回顧は 2022 年 3 月号の元国際会長ニュースレターから、その編者である元国際会長アイザック・パラシンカルの承諾のもと転載したものです。

イングヴァー・ワリンとその妻クリスティアンヌ
イングヴァーは、1973 年にワイズメンズクラブ国際協会の国際書記長に任命されるまで、1970 年から副書記長を務めていました。国際書記長を 1979 年まで務め、その間に、スイスのジュネーブに新しい事務所を設立しました。1984 年、再び国際書記長に復帰し、2000 年までその任にありました。

『ジュネーブの新国際本部最新情報』

このたび、ジュネーブの新たな国際本部となる不動産の取得について国際議会の支援を受けることができたことを大変うれしく思います。現在のジュネーブのオフィスは、多くの点で不足しており、そのため新たに購入するか、リースする必要に迫られておりました。

1970 年代に米国で不動産を売却した際の基金をエンダウメントファンド (Endowment Fund) とし、それを株式市場で運用してきました。長期間の内に基金は顕著に拡大し、それは、私たちが不動産取得の検討を始めるための理由の一つとなりました。この 12 ヶ月間、国際本部のスタッフは、多くの選択について調べると共に、いくつかの有望な場所を訪れました。最終的な購入はまだ先のことですが、YMI にとって最良の結果を得るためにスタッフによる調査は続けられ、様々な交渉が続いております。

私たちは、このオフィス購入に対する各クラブの皆さまのご支援を切に願っております。EF を拡充するためには、未だ皆さまからの資金援助が必要です。それは、YMI の現在と将来のために、財政的な安定性を提供します。そこで、各地域の皆さまには、EF が更にその目標に添えるようになるようご支援をお約束頂くようお願いいたします。

デンマーク区では、執行部が「事務所購入委員会」を設置しました。この委員会では、物件の購入ならびに財政状況に関する適切な報告書を採択しました。また、委員会は、全クラブ会長に接触し、物件を購入することへの支援の約束を取り付けることを決定すると共に、デンマークのクラブ会員が、個人的に献金する際、税制上の優遇措置を受けることができる可能性を確立しました。

この購入によって、私の元国際会長としての個人的な目標の一つが達成できたことに大きな喜びと満足感そして感謝を覚えます。皆さまのご支援に改めてお礼を申し上げます、ありがとうございました。

直前国際会長　ジェイコブ・クリステンセン

韓国:ワイズメンズクラブ国際協会創立 100 周年を記念して 思い出の地域大会

2022 年 1 月 7 日～ 8 日、ワイズクラブ国際協会創立 100 周年を記念する第 6 回韓国地域大会が、テグのホテルスーソンで開催されました。今大会は、ワイズメンのアイデンティティを実現し、ワイズメンの 3 大プログラムである親睦、文化、奉仕の調和とバランスを実現することに焦点を当てました。新型コロナウイルスの流行により、参加者数は当初予定の 1,300 名から 299 名に減少されました。大会会長のパク・スンチョルのあいさつに続き、ビデオメッセージ「コリア」が流されました。キム･ブギョム 韓国首相からのビデオメッセージ、クァン・ヨンジン、テグ広域市市長からの祝辞に続き、YMI100 周年を記念したエリア大会が開催されました。

あいさつする
パン･ギムン前国連事務総長

ワイズメンクラブ国際協会の 100 周年記念式典が、キム・サンチェ国際会長のリーダーシップのもとで継続されました。バン・キブン前国連事務総長は「新たな 100 年のための新たなリーダーシップ」というテーマで 1 時間の講演を直接行いました。この模様は YouTube を通じて全世界に生中継されました。

第 6 回韓国地域大会開催記念事業として、1,500 万ウォン（約 12,600 米ドル）を韓国 YMCA に寄贈しました。また、2 日目の新年礼拝で集まった約 400 万ウォン（約 3,365 米ドル）をソウル区で開催される北朝鮮からの脱北者や筋ジストロフィーの患者を支援するためのチャリティーイベントのための資金として寄付しました。

パク・スンチョル地域会長

出典：2022 年 2 月、国際会長ニュース

記念すべき1枚

アメリカ:新装なったP･W･アレキサンダー公園

ワイズメンズクラブ国際協会の創設者P・W・アレキサンダーの生誕の地であるオハイオ州トレドの中心にあるP･W･アレキサンダー公園（旧スペリアー公園）の遊び場が新しく整備されました。

トレド市長のウエード・カプツキィーウィッツは、公園事業に強い関心を示し、その絵が公園の最終デザインに影響を及ぼした同市のシャーマン小学校の優勝アーティストのテリネー・グリスワルドと共に仕事をしました。この公園計画は、トレド市、トレド動物園、トレド公立学校群、ボーリング･グリーン州立大学、芸術委員会、そして、フレンドリー･センターなどが関わった協賛事業でした。ESPN そして、LISC トレドからの補助金に感謝し、この事業は、最終段階にあります。

読者の皆さんは、ご記憶でしょうが、トレド市は、2019年11月の次期理事サミットに集まった多くの海外からの代表者の臨席のもと、旧スペリアー公園の名称をP・W・アレキサンダーを記念して変更しました。

2019 年にトレド市議会が全会一致で、スペリアー公園が、あのP・W・アレキサンダーが育った一帯にあったことから選ばれ、ポール・ウイリアム・アレキサンダー公園と新しく命名しました。

左から韓国ジョンアン･パク元区理事、トレドの PWA 公園にて。右の写真は、地元住民とトレド市長のウエード・カブズキーウイーズ

アレキサンダー判事誕生の地を訪れた韓国からの巡礼者

韓国地域のジョンアン・パク元区理事はポール・ウイリアム・アレキサンダーの生誕の地に巡礼旅行と呼べる旅をしました。彼は、オハイオ州トレドの私たちの運動の創設者、ポール・ウイリアム・アレキサンダーに関係ある主な場所を訪問しました。訪問先には、創設者が子供時代に過ごした家、現在では YMI が、レガシー・プロジェクトの一環として設置した墓石が建てられている墓などです（写真上）。上段の写真は、公園の新しくされた掲示板の前に立つ同氏。この掲示板は、2019 年にアレキサンダー判事を記念してトレド市によって改名された公園のボードです。

インド:「ジーヴァン・ジョーティー」腎臓病患者に希望を与える

バンガロール第 2 部では、最近、貧しい慢性腎臓病患者の透析を支援する「ジーヴァン・ジョーティー」（命の光）というユニークな慈善活動を始めました。バンガロール農村部のホスコートにあるメディカル・ミッション病院と、バンガロール近郊のセントジョンズ病院の 2 つの病院を特定して、バンガロールのワイズメンから紹介された患者は、割引料金が受けられるという覚書に調印しました。

この覚書で、ワイズメン慈善信託（寄付者が税制上の優遇措置が受けられるよう、部が推進している）から、クラブメンバーが紹介した患者が、透析を受ける毎に 1,000 インドルピー (13.00 USドル) を負担することになりました。病院からの請求が、その金額を超えた場合には、患者が負担するか、病院や他の慈善団体に支援してもらうことが必要です。

インドの腎不全での死亡者数は、社会的人口統計指数が似ている他の中低所得経済圏と比べると、多いことが伺えます。絶対的、相対的な意味でも、インドでは腎不全患者が治療を受け、保険制度で補われている割合は低く、唯一インドより人口の多い中国よりもさらに低いのです。

2018 年の推計では、インドの慢性透析患者数は、約 17 万 5 千人で、人口 100 万人あたりの有病率は、129 人とされています。ある報告では、2010 年に腎不全患者の約 3 分の 2 が、透析を受けずに死亡したと推定されています。

ジヌ・ジョージ（部書記）

透析室前でメディカル・ミッション病院のスタッフに1,000ルピーのクーポンの目録を手渡すK・C・サミュエル次期国際会長

ワイズメン慈善信託の K・V・ジョース事務局長と医療ミッションのジンソン・K・マシュー牧師がサミュエル次期国際会長とスベーシュ部長の立会いのもと、署名した覚書の交換をしているところ

インド：女性のエンパワーメントに対する意識改革

インド地域のインド中西区のユースミニストリー・ワイズメンズクラブは、2 月に女性のエンパワーメントを支援するためにサイクルラリーを開催しました。女性のエンパワーメントという考えに賛同し、ピンクのリボンを手首につけた 25 人のサイクリストが、ケララ州のコチ市内を巡る「サイクラソン」に参加しました。

モルドバ:迫りくる難民到来への備え
〔モルドバの友人達からの最新情報〕

現在、モルドバは、すべて順調で、私たちの領土で戦争はありません。

私たちの組織のすべてのメンバーは、ウクライナからの難民を支援するボランティア活動に取り組んでいます。私たちのボランティアは、いくつかのチームに分かれ、モルドバとウクライナ間のすべての国境で活動しています。彼らは、生活必需品のパッケージを配る手伝いをしています。

ユースセンターでは、行き場のない難民を初めて受け入れ、彼らが旅を続ける、あるいはモルドバに留まるための支援を行っています。これまでに、ウクライナからの７万人以上の難民がモルドバに到着しています。ウクライナの現状では、今後、その数は、増加すると思われます。

どのような形であれ、皆さまのお力添えをお願い致します。具体的には、以下の物が必要です。防寒具、オムツ、毛布、枕、寝袋、日持ちの良い保存のきく食品、衛生用品などです。

皆さまのご支援をよろしくお願い致します。

敬具

モルドバ YMCA、ボイェボド YMCA、
ワイズメン・モルドバチーム
(2022年3月2日投稿メールより)

詳細は下記のYMCA
モルドバFacebookページをご覧ください。
https://www.facebook.com/ymcamoldova/

安全を求め国境を越える人たちを迎えるためのボランティアたちは、準備万端

ハワイ：グリーティング レイ作り

アサートン Y サービスクラブ会員とアサートン YMCA の会員は、アサートン YMCA で行われたレイ作り（花輪作り）のイベントに参加しました。レイは、通常、来客やプログラムに参加する代表者を出迎えるためや、また、ときに募金活動として使用されます。レイは、ハワイのアロハ精神 - 愛、友情、お祝い、名誉の共通のシンボルです。

ハワイ：ジュニアリーダーを表彰

ヒロ Y サービスクラブは、ハワイ島 YMCA 春のデイキャンプ、ジュニアリーダープログラムを支援しました。100 人近いケイキ（ハワイ語で子供たち）と共に、優れたボランティア活動を行ったジュニアリーダーには感謝状と YMCA ストラップが贈られました。

ジュニアリーダーの皆さん、お疲れ様でした。

アフリカ:さらに成功したフード・ドライブ

2018 年から毎年、ナイジェリアのラゴスワイズメンズクラブが、実施してきたフード・ドライブの 2021 年版が 2021 年 12 月 19 日に開催されました。会場は、ラゴス YMCA でした。

毎年、YMCA の施設内に大勢の参加者を集めるこのイベントは、午後 4 時に開始することになっていましたが、午後 3 時 30 分には、期待通り、多くの受益者が着席して参加してくれました。

開会の祈りの後、クラブ会長のバヨ・アルモソエは、出席者を歓迎し、クリスマスがある 12 月に開催されるこのイベントは、地域社会の恵まれない人々に施しをして奉仕する精神を表明するものであることを想い起こさせました。

奨励の言葉に続けて、クラブ会長は「このイベントは、私たちのクラブが、YMCA の奉仕活動の一環として、私たちが持っているものを、私たちの中の、より恵まれない人や貧しい人と分かち合いなさいとした聖書のキリストの言葉に沿うよう具体化したものです。」と述べました。

クラブ会長は、また、クラブの他の 3 人のメンバーと協力して、招待された受益者に、このクラブの歴史やフード・ドライブの起源について話し、このクラブに入れば、受益者やその子どもたち、あるいはその友人たちは誰でも、積極的で実り多い、活動的なメンバーとなって楽しむことができることを説きました。

クラブ書記　バデジョ・マシュー

イベントで活動中のラゴスクラブのチーム

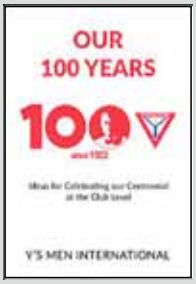
2022-24 年度国際ユース代表

ケララ州コチのワイズユース、クリシュナン・ユニ（インド地域、インド中西区）は、2022 年～2024 年度の国際ユース代表に選出されました。ユニは、電子通信工業大学の卒業生で、現在教育技術関連の企業で働いています。

彼は、ワイズの家族の出身で、2017 年から親クラブおよび部、区、地域の各レベルでの若手メンバーとして活躍してきました。ユニは、また、2018 年に韓国のヨスで開催されたIYC（国際ユースコンボケーション）にも参加しました。

これとは別に、彼は、大学協会の書記に選出され、学生時代には、大学学術評議会のメンバーでした。

すべてのワイズメンズクラブに対する祝賀行事参加の呼びかけ



私たちは、2022年5月1日から8日までの祝賀の週に、あなたのクラブと世界中のすべての人々が、複数の祝賀活動を行うよう呼びかけたいと思います。

この小冊子は、ワイズメンズクラブが、100年にわたって展開してきた友情と慈善活動を祝うよう動機づける活動のアイディアを提供することを目的としています。

本年は、ワイズメンズクラブの100年目に当たるので、私たちは、あなたのクラブがこの機会を祝う方法について100のアイディアを発案したいと考えました。結果的には、100は見つかりませんでしたが、おそらくあなたとあなたのクラブは、私たちが思いつかなかったアイディアを思いつくかもしれません。もし思いついたら、フェイスブックで是非あなたのアイディアを私たちに知らせてください。www.ysmen.orgからこの小冊子をダウンロードしてください。

Y's Men International
Y Service Clubs International
YMI WORLD

ワイズメンズクラブ国際協会からのお願い

各クラブのリーダーは、そのクラブの活動に関する記事に、1 枚以上の高解像度の写真とその写真についての適切なキャプションを付して送ってください。記事は 150 ワード以内でお願いします。

読者の皆さんからは、ワイズメンズクラブの運動についての地球規模の気になる事項に関するご意見やご感想をお寄せください。

記事と写真は、www.ysmen.org/ymiworld に提出してください。

次号の原稿提出締切日は、2022 年 5 月 31 日です。

心も思いも一つにし

ほとんどの人が、レクおばちゃんと呼んでいる女性は、タイの首都バンコクの道路や通りでリサイクル可能な捨てられた紙、プラスチック、アルミなどをあさっています。彼女は、このいわゆる「ゴミ」を自分の手押し車に載せて、それが一杯になると１ポンド単位で全て買い取ってもらえる地元のゴミ集積場まで運んで行きます。彼女が、毎日稼いでいる雀の涙ほどの収入では彼女と精神障がいを持つ娘と夫が生活するにはギリギリです。数年前のことですが、彼女の夫は、床清掃員として働いていた工場の事故で怪我を負い、現在はレクおばちゃんが、家族を一人で養うためにバンコクの街を一回りする間も、自宅に留まっています。もし、彼女が、一日でも働かなければ、食べ物が食卓にのぼることはありません。レクおばちゃんと彼女の小さな家庭にとって、生活はとても苦しいのですが、空き地に不法居住者として住んでいるので家賃を払う必要がなく、何とか生き延びています。電気はありませんが、近くにある水道管の蛇口から信じられないほどの低料金で水を手に入れることはできます。

世界中にレクおばちゃんのような人が大勢いて、明けても暮れてもその日を生き延びるために奮闘しています。そのような人たちの存在に気づいていないかもしれませんが、私たちの生活は、彼らの生活と密接に関わっているのです。不幸なことに、このグローバル化した世界においては、私たちが、何をするか何をしないかがレクおばちゃんのような人たちが、食料を得たり、学校に通ったり、医療を受けたり、単に飲料水を手に入れる能力にさえ深刻な影響を及ぼす可能性があるのです。レクおばちゃんに関する話がこの事実を如実に物語っています。

レクおばちゃんの手押し車が、捨てられた紙で一杯になると、それを地元のゴミ集積場でほんの数セントで売ることによって、彼女の家族の夕食用の僅かな野菜とお米を買う助けになるのです。地元のゴミ集積場は、その買い取った廃棄された紙を近くのリサイクル工場に転売し、その工場は、それらを分別、梱包して中国に輸出します。そして中国ではそれらすべての廃棄された紙を段ボールに作り替える別の工場に転売されます。その段ボールはさらに段ボール箱を製造する別の工場に売られるのです。

それらの段ボール箱は、おもちゃ工場によって購入され、おもちゃを詰め込まれ、アメリカのウォールマートのような企業に輸出されます。私たちは、それらのおもちゃを誕生日やクリスマスに子供たちのために購入するのです。したがって、私たちが、中国製の子供用玩具を購入することでレクおばちゃんのような人たちが、家族のために質素な食事を食べるのに必要な僅かな日銭を稼ぐ一助となるのです。

グローバルに密接に係わる

米国経済が、現在の様に危機に直面すると、アメリカの人たちは、子供たちにあまりおもちゃを買わなくなります。それは中国のおもちゃ会社が、おもちゃを輸出する量が減ることを意味します。その結果、必要な段ボール箱と段ボールの量が減り、最終的にレクおばちゃんが、集めることのできる廃棄された紙の需要が減って、１ポンドあたりの紙の値段が下がるか、地元の回収会社が全く購入を止めてしまうことを意味します。いずれにしても、レクおばちゃんが、家族を養うために必要な食料を買うための僅かな収入が断たれて、彼女が他の収入源を見つけることができるまで家族が路頭に迷うことになります。

この破滅的な（消費拡大主義の）隷属状態を断ち切る唯一の方法は、正義と平等に基づく経済システムを構築することです。なぜなら最終的に私たちの共同社会の全てを破壊することなく、世界の資源の消費量を増やし続けることはできないからです。

グローバル化は、私たちが必ずしも意識していない方法で私たちと係わっています。グローバル化は、私たちにいくらかの恩恵をもたらしたかもしれませんが、資本主義が経済のグローバル化の中心にあるという事実は私たちが、物を購入し続けない限りバンコクのとある遠く離れた人目につかない貧民街に住む人たちが苦しむことを意味しています。私たちは、レクおばちゃんと家族が、日常の糧を得るためだけでなく、自国の経済を繁栄させ続けるために購入量を増やし続けざるを得ない悪循環に陥っているのです。もし私たちが、新しい物を買うのを止めたり、控えたりするだけでも不況の影響がバンコクの貧民街の貧しい女性にまで及んでしまうのです。私たちは、グローバル化した地域社会に浸透している消費拡大主義の奴隷となっているのです。

この破滅的な隷属状態を断ち切る唯一の方法は、正義と平等に基づく経済システムを構築することです。なぜなら最終的に私たちの共同社会の全てを破壊することなく世界の資源の消費量を増やし続けることはできないからです。私たちの生活は、現在のところ、世界中のレクおばちゃんたちと密接に係わっているので、増え続ける購買欲のニーズに頼る必要のない地球社会を模索し、構築するために世界中のレクおばちゃんたちと共同する必要があるのです。おそらく先ず始めるべきことは、初代教会の人々が「・・・心も思いも一つにし、一人として持ち物を自分のものだと言う者はなく、すべてを共有していた。使徒たちは、大いなる力をもって主イエスの復活を証（あか）しし、皆、人々から非常に好意を持たれていた。」（使徒言行録・第４章 32-33 節）の時にどのような共同社会を築こうとしていたかをより深く考察することではないでしょうか。

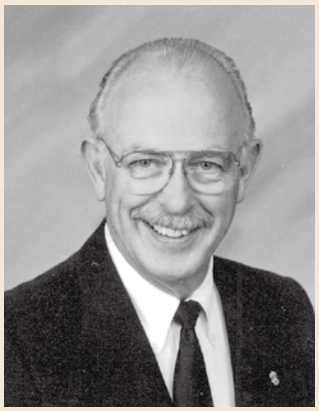
＊マックス・エディガーは、カンボジアの「平和の学校」の運営責任者です。彼は長年のブロガーであり、この記事は、以前のブログに掲載された記事の一つで http://calebandshalev.wordpress.com/ から転載されたものです。

1998-2010 年の国際会長

73. エリック・キム
1998-1999の国際会長
ホームクラブ:カリフォルニア（米国）

76. パイク・スンホ
2001-2002の国際会長
ホームクラブ：ソウル（韓国）

74. オーレ・ハンソン
1999-2000の国際会長
ホームクラブ:ヴェーデンステット
（ヴァイレ・デンマーク）



77.　ウイリアム（ビル）・ワード
2002-2003の国際会長
ホームクラブ:トーランス
（カリフォルニア州・米国）

75. デール・フォザリンガム
2000-2001の国際会長
ホームクラブ：セントラルコースト
（ニューサウスウエールズ州・
オーストラリア）

78. ジェイコブ・チェリアン
2003-2004の国際会長
ホームクラブ:ティルヴァッラ
（インド）

1998-2010 年の国際会長

79. ジョン・L・チョア
2004-2005の国際会長
ホームクラブ:マニラ(フィリピン)

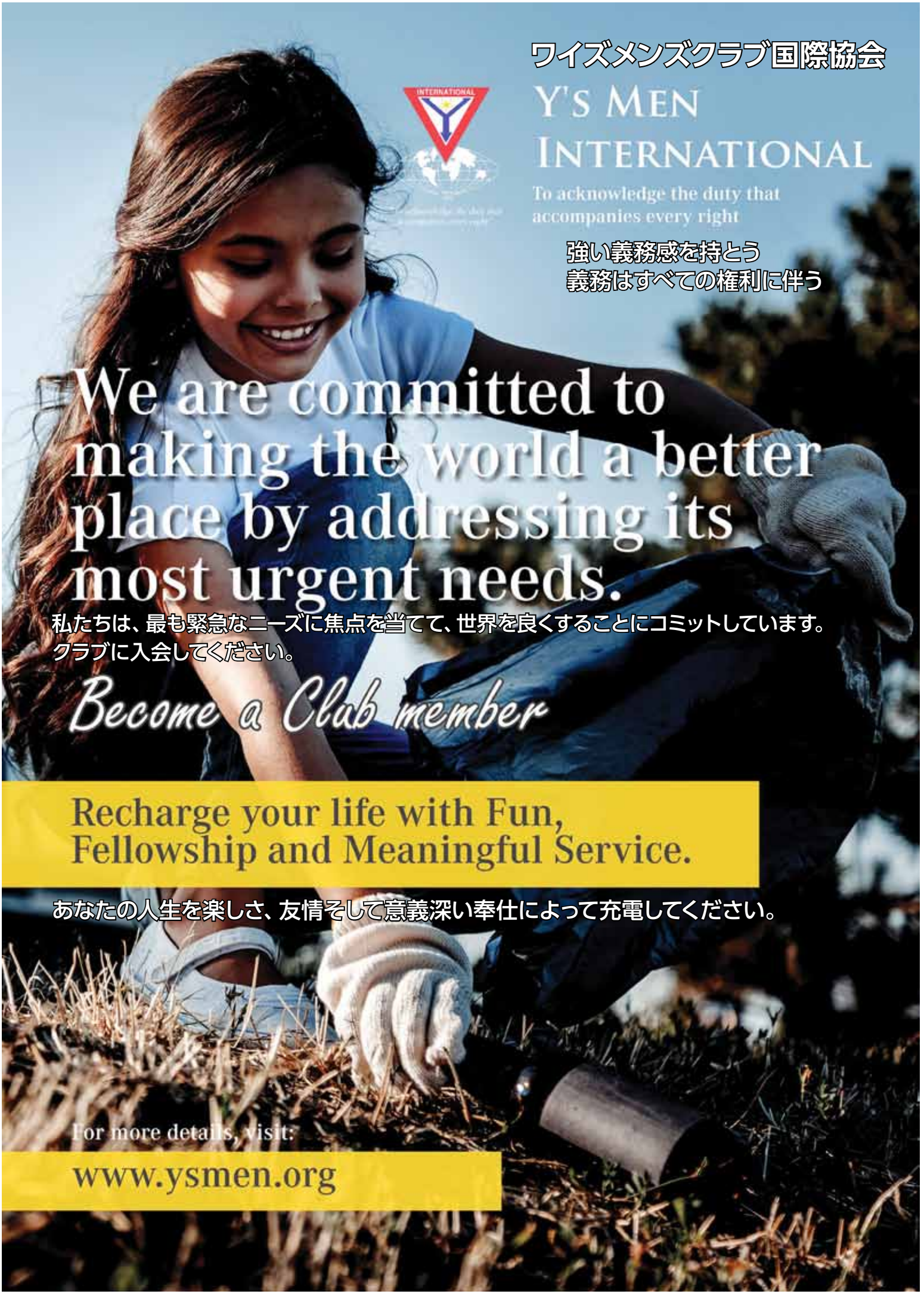
82. ラッセ・ベルグステット
2007-2008の国際会長
ホームクラブ:ギストラップ
(デンマーク)

80. ベンソン・ワブレ
2005-2006の国際会長
ホームクラブ:ティカ(ケニア)
アフリカ初の国際会長

83. V・S・バシール
2008-2009の国際会長
ホームクラブ:コラム(インド)

81. チョイ・ハンキ
2006-2007の国際会長
ホームクラブ:ブサン(韓国)

84. ケビン・カミングズ
2009-2010の国際会長
ホームクラブ:スプリングヒル
(ノバスコシア州・カナダ)


ワイズメンズクラブ国際協会
Y'S MEN INTERNATIONAL
To acknowledge the duty that accompanies every right
強い義務感を持とう
義務はすべての権利に伴う
We are committed to making the world a better place by addressing its most urgent needs.
私たちは、最も緊急なニーズに焦点を当てて、世界を良くすることにコミットしています。
クラブに入会してください。
Become a Club member
Recharge your life with Fun, Fellowship and Meaningful Service.
あなたの人生を楽しさ、友情そして意義深い奉仕によって充電してください。
For more details, visit:
www.ysmen.org